

令和2年度 瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議 意見要旨

日時 令和2年7月27日（月）
午後1時30分～午後3時45分
場所 瀬戸内市役所 2階 大会議室

(1) 瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略におけるKPIの状況について 資料1

【委員】

人口が社会増となっており、人口ビジョンの予測も上振れしているが、第1期総合戦略の取組において、具体的に何が要因と考えられるか。

【企画振興課】

第1期総合戦略の計画期間では、しごとづくりや移住・定住施策に力を入れて取り組み、多くの方に移住していただいた。また、市の中心部には新しい住宅団地も多くできており、住む場所として選ばれていることが社会増の要因と考えている。

【委員】

出生率の向上と、子育て世帯の移住・定住が重要だと考えている。瀬戸内市には産婦人科がないので、出生率向上のために産婦人科を誘致してはどうか。

【企画振興課】

瀬戸内市は出生率が低いが、市外で第1子を出産してから、家を建てて移住される子育て世帯が比較的多く、子どもの数はあまり減っていない。子育て世帯に選ばれるまちとして、子育てしやすい環境づくりや外遊びを楽しむ「こども広場事業」に取り組んでいる。ご提案いただいた産婦人科の誘致については、引き続き検討させていただく。

【委員】

新型コロナウイルスの感染拡大で、在宅勤務が増えている。今後もテレワークが進み、都会に住まなくても、ネットワーク環境が整っていれば地方で仕事ができるようになると思うが、瀬戸内市内のネットワーク環境はどれくらい充実しているのか。

【企画振興課】

瀬戸内市内は一部に光ファイバ未整備地区がある。国の交付金を活用して、市内全域に光ファイバを整備する予定である。

【委員】

市民まちづくり意識調査をKPIの指標とした項目の達成率が低いのは、目標が高すぎたことが原因か。第2期総合戦略ではどのようにKPIを設定したのか。

【企画振興課】

第1期では瀬戸内市の人口減少問題の克服と持続的発展を目的に、非常に高いKPIの目標値を設定したが、結果として達成度が低くなっている。第2期総合戦略では、第1期総合戦略の成果と課題を検証したうえで、適切にKPIを設定している。

(2) 令和元年度地方創生関連事業の効果検証について

①地方創生推進交付金活用事業 資料2

【委員】

効果的な広報等の実施はとても重要なことだと思う。市民だけでなく、近隣の自治体にも瀬戸内市の取組を発信していくことで、瀬戸内市に興味を持ってくれる人が増える。効果的な情報発信により、どのような反応があったかについても把握していただきたい。

【企画振興課】

ご意見を踏まえ、事業を実施していく。

【委員】

文化芸術振興を推進する財団法人の検討について、瀬戸内市で既に活動をしている市民団体等の現状把握をお願いしたい。また、各団体の課題について情報交換できるように市が中心となって取り組んでいただきたい。

【文化観光課】

市内には文化芸術活動を行っている団体が多くあると聞いている。現状を把握し、各団体間を調整しながら財団法人の設立について検討していきたい。

③地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）活用事業 資料4

【委員】

観光について、新しい生活様式という時代に向けた観光資源の開発を行い、県内の観光消費や地域消費を促進するべきと考える。「そこでしかできない学び」という観点で、長島をテーマに、愛生園や光明園、備前県民局、邑久高校等と連携を図ってSDGsの教育旅行プログラムの受け入れ態勢を整えていただきたい。

【市民課】

備前県民局をはじめ、長島両園の自治会や地元の皆さんにもご協力いただき、取組を進めていきたい。

【委員】

新型コロナウイルス感染症で地方移住が増えると言われているが、移住の際には一定の公共交通が整備されているかがポイントとなる。JR赤穂線が基本となり、そこからデマンド交通でつなげていくということは基本路線と考えるがどうか。

【建設課、企画振興課】

JRの駅前等整備については、関係機関との調整に時間がかかっていたが、今年度から工事に着手する。また、平成29年度から市営バスの運行を開始しており、現在6路線導入している。今後も、民間のバス業者と共存しながら地域公共交通を支えていきたい。

【委員】

JR駅前整備について、駅利用者に対してアンケート調査を実施し、誰が利用者として

多いのか、駅前に何が必要なのかを把握するべきではないか。

【建設課】

ご提案いただいたアンケート調査等で、利用者に何が必要なのかを把握し、駅前に設置予定のデジタルサイネージに反映することを検討したい。

④地方創生汚水処理施設整備推進交付金活用事業 資料5

【委員】

きれいな水为目标に掲げているが、今の瀬戸内海の在り方は、豊かな海为目标とするなど概念が変わってきている。きれいな海だけを追求するのではなく、豊かな魚が採れる海をアピールすべきではないか。

【下水道課】

本計画を立てた頃は水をきれいにする事としていたが、昨今は海苔の色落ちや牡蠣の生育不良などの問題が出てきており、下水が綺麗すぎるためではないかといわれている。基準値の緩和について検討していきたい。

【委員】

移住の際にネックになるのがトイレであり、非水洗で移住をあきらめる人がいることはもったいない。市全体の整備は難しいかもしれないが、重点地域を指定して優先的に整備するなどできないか。

【下水道課】

令和4年までの事業計画は既に決まっているが、それ以降の事業計画を策定する際には、関係部局と連携し計画的に整備していきたい。

(3) その他

【委員】

観光について、地域の魅力を発信することは、非常に大切で有意義なことだと思う。瀬戸内市単独ではなく、近隣市町と連携してプロモーションを行う方が、効果が高いのではないか。

【文化観光課】

広域連携は必要だと考えている。岡山県や近隣市町、吉井川流域 DMO、赤穂線沿線協議会などと連携してプロモーションをしていきたい。

【委員】

地域づくりに必要なのは「人づくり」である。「こども広場」の取組は非常に晴らしく、子育て施策も充実していると思う。瀬戸内市の素晴らしい地域資源や取組を、子どもたちの自慢つなげていただきたい。

【企画振興課】

今年度から、地方創生推進交付金を活用して「子どもと過ごす瀬戸内市ライフプロジェクト」を進めている。瀬戸内市全体が子どもの遊び場というコンセプトの「こども広場」事業に加え、不登校児童の支援や邑久高校の支援に取り組む予定である。庁内の体制も整えながら、子育てしやすいまちづくりに取り組んでいく。

【委員】

観光面では、新型コロナウイルスの関係もあり、今後はリモート観光を是非やるべき。大学生に協力してもらい、現地で実際に観光した映像などを YouTube やインスタグラムで発信し、コロナ終息後に現地に行ってみたいと思ってもらえるような企画も必要。移住・定住施策についても、実際に住んだイメージをビデオ化し SNS で発信してはどうか。

【企画振興課】

このコロナ禍の中で、リモート化は非常に重要だと思っている。最近では移住・定住のリモート相談会を行っている。新しい生活様式に対応するため、リモート観光も含めて今後検討していく。

【委員】

コロナ禍の時代で、観光業界に一番大切なことは安心・安全の担保を持つことである。安全・安心対策がなされていないと消費者は訪れない。安全・安心の担保にまずは取り組んでいただきたい。

【委員】

地方創生が開始した時から、瀬戸内市の産業連関表を作るべきだと提案している。今のコロナの時代では、地域の経済循環を高めることが、1つの大きな課題になってくるため、産業連関表の作成を進めてはどうか。

【企画振興課】

地域内の経済循環を高めるため、瀬戸内市産業連関表を作成するよう今年度から取り組んでいく予定である。

以上